

# 第4回全国銃剣道指導者研修会



手ぬぐいを使った「構え」の練習

**第4回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月10～12日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、特別講師・講師・助講師9名により、参加者93名の参加を得て開催された。この研修会は、全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、我が国の伝統と文化に立脚した理論と実技の研修会を実施し、「銃剣道」の理解を深め、専門的な知識・技術・指導法の充実を図り、もって全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われている。**

## ◆1日目（11月10日）

開講式では、鈴木健全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立った。

「本研修会は、中学校の銃剣道授業の指導者を養成していくことを目的としています。中学校の銃剣道授業採用校は未だ1校のみです。これをどうにか広げていきたいと考えております。学校の先生には、銃剣道授業をどう教えたらいいかを学んでもらいたい。社会体育指導者には、中学校での銃剣道授業はこういうものだということを体験していただき、学校の先生の補助・支援をできる体制を作っていただきたいと思います」

続いて、吉川英夫日本武道館事務次長兼研修センター所長が挨拶を述べた。

「本研修会は、国の補助を受け、全国の銃剣道指導

者の資質向上と中学校における武道必修化の成功を狙いとし、開催しております。今年は嬉しいニュースとして、新学習指導要領に武道全9種目の並列明記が発表されたこと、日本武道協会設立40周年を記念して『中学校武道必修化指導書・DVD』が刊行されたことがあります。本研修会のカリキュラムにも指導書の内容が組み込まれております。是非とも実り多い研修会になることを祈念し、主催者挨拶いたします」

開講式終了後、『中学校武道必修化指導書』付属DVDのうち、武道編を視聴した。

最初に、特別講師の塩川達大スポーツ庁政策課学校体育室長による「新学習指導要領について」の基調講演が行われた。

講演は、「1. 子供の現状から」「2. 新学習指導要領と武道」「3. 運動部活動と喫緊の課題」の三つのテーマで行われた。「1. 子供の現状から」

では、平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を元に、1週間の総運動時間が0分の中学女子生徒が約15%を占めることや、自主的にスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生が、小学生よりも10%以上減少していること等を挙げ、中学生の運動意識の低下を示した。「2. 新学習指導要領と武道」では、「AIの登場



塩川達大 学校体育室長

やあらゆる仕事の自動化により、子供たちの未来は不確実である」とし、「このような時代に子供たちが未来の創り手となることができる能力を育てていくことが重要になっている。これが次期学習指導要領の基本的な考え方であり、コンセプトである」と述べた。新学習指導要領における武道の取扱については、「現行学習指導要領においても、多種目の武道が授業で採用できるように記載されているが、種目名が明記されていないことで、学校現場からの理解が得られないという声があった。このことを踏まえ、今回の9種目明記となった」と説明があった。「3.運動部活動と喫緊の課題」では、保健体育科教員ではなく、かつ競技経験もない種目の部活動顧問をしている教員が、中学校で約46%、高等学校で約41%いることを示し、平成29年度より施行された部活動指導員の制度化について説明を加え、講演を終了した。

続いて、場所を大道場に移し、滝沢元気講師が「学校授業における銃剣道指導法」の模擬授業を行った。参加者を8グループに分け、MT（メインティーチャー）1名、ST（サブティーチャー）1名が、生徒役3名に対して授業形式で指導法を実施、その他の参加者が評価表に基づいて、生徒や授業内容を評価する形で行った。模擬授業後は、評価の発表を行い、評価の観点や授業内容、授業展開について振り返った。

## ◆2日目（11月11日）

中学校必修化対応・高校部活動（A班・22名）、社会体育指導者（B班・71名）に分かれ、目的別実技研修が行われた。中学校必修化対応・高校部活動（A班）では午前中、滝沢講師が「礼法（立ち方・座り方）」の指導を行った後、手ぬぐい（タオル）を使用した「構え・直れ」の指導を行った。最初から初心者にも木銃を持たせると、重く感じてしまい、形が崩れてしまうため、最初は手ぬぐいを使用して指導することが有効であると説明した。

続いて「足さばき（送り足・開き足）」の練習を行った後、用具を手ぬぐいから木銃に持ち替え、再び「構え・直れ」の練習を行った。剣先の高さは、自分の胸の高さにすること、右手の親指の付け根が腰骨に触れるように握ること等の注意点が示された。続いて行われた直突の練習では、構えたときと突い

たときの剣先の高さは、常に同じ高さにすることを注意点とした。

午後の研修では、はじめに『中学校武道必修化指導書・銃剣道編』を資料とし、午前中行った研修内容が指導書のどこに掲載されているかを確認した。加えて、石川慎也講師が「本指導書は銃剣道を専門としない保健体育科教員が銃剣道授業を行えるように作られている」ことを強調した。

次に、遊びの要素を取り入れた指導例として、3人1組で新聞紙の中心を突く指導例と、カラーコーンに筒状にした新聞紙、ソフトバレーボールを乗せ、アーチェリー用的に向かって直突し、得点を競うゲームを行い、いずれも大いに盛り上がった。滝沢講師より、「ゲームを行う際は、高得点を取ることが目的となってしまう直突の姿勢が崩れてしまわないよう、指導者が生徒へ声掛けしていくように」と指導上のポイントを付け加えた。



## ◆3日目（11月12日）

鈴木健講師による「全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組み」と題した講義が行われた。講義では、全国で唯一の銃剣道授業採用校である平塚市立土沢中学校の例を紹介。学校長が「安全な武道、銃剣道授業により、体育の事故発生率が下がった」と評価していることを伝えた。また、今後の銃剣道授業実施校の努力目標を、今年度2校、31年度9校（ブロック1校）、33年度18校（ブロック2校）とすることを発表した。

最後に閉講式が行われ、主催者挨拶で酒井健全日本銃剣道連盟会長が「関係各位・皆様の協力のおかげで、新学習指導要領に銃剣道が明記され、銃剣道界が大きく変わった。今回得た技術や精神を地元へ還元してほしい」と締めくくり、全日程が終了した。